

514	こどもめっちゃかわいい	515	卒業後数年経って連絡くれた子ども	516	感謝の人は謙虚です 恩知らずは傲慢です	517	誕生日をサプライズでお祝いしてくれたこと。
518	子どもたちが協力して一つの劇を完成させたこと。	519	吹奏楽部で人間的に成長してくれたたくさんの生徒たち。	520	クラブ活動ではない全員合唱で大きな大会に出場したこと。	521	学級担任をしていると毎年私の誕生日にサプライズを仕掛けてくる子どもたち。
522	大きなケガをしても、明るく前向きに頑張っていた子どもの姿が心に残っています。	523	人数は、少なかったのですが、男の子も女の子も元気がかわいかったです。運動場や川で遊びました。	524	バスケットボール部の顧問として、県大会で優勝した際には、子供達からたくさんの感動をもらいました。	525	年度末にサプライズで寄せ書きをプレゼントしてくれた。 大変手を焼いたクラスだったので嬉しかった。
526	自分が遅刻してしまい、ショックを受けていたら、重度の障害のある児童が何かを感じて笑って頭をなでてくれた。	527	妊娠発覚時に担当していた小5のクラスの子たちに終業式の日に感謝の手紙をくれた子たちが特に心に残っています。	528	小学校から不登校だった生徒を部活で引っ張り、高校へ無事進学した後、その競技を続けて、見事近畿大会まで出場する選手になってくれた事	529	前任校の子ども。自閉症スペクトラムでこだわりの強い彼が、徐々にこだわりがなくても学校生活を送ることができるようになっていったことが印象深い。
530	毎日保健室に通ってきて、言うことも聞かず子どもが怒って帰ったこともあるけど、保護者から先生のこと好きみたいなのでよろしくお願ひしますといわれたこと	531	発表会の当日になって発熱し、欠席した友達のセリフ等をみんなでカバーしていました。後日、欠席していた子どもが登園すると、みんなで「発表会ごっこ」をして、楽しんでいました。	532	年度末が近づくと子どもたちがそわそわはじめ、こっそり様子を伺うとサプライズで先生ありがとう会を企画して準備してくれていました。まだ低学年でしたが、人を喜ばせたい！楽しませたい！という子どもたちの思いに心が温かくなりました。	533	入学したときは特別支援担任として、卒業時は専科として同じ学年に関係をもったとき、できなかったことがたくさんできるようになり、6年間の成長をすごく感じたことです。卒業時には「ありがとうございました。」と言ってくれたこともすごく成長を感じ、心に残っています。
534	初めて担任したこどもたちです。2年保育の4才児ですが、次の年も三分の一は持ち上がりました。何をするのも初めてだったので、一緒に成長させてもらったと思います。泣いたり笑ったり…過ごしました。その子たちが保護者になり再開することもあり、嬉しいようなななんととも言えない気持ちになります。	535	以前勤めていた大阪の中学校の生徒で、チャレンジ精神旺盛で成績も優秀な生徒がいました。自転車で大阪から、奈良まで自転車で私の家に遊びにきたりしていました。目標の大学に入学できるまで、三浪して挑戦し、合格を勝ち取りました。大学卒業後は、アメリカに渡り、F1レースや、ハリウッド映画の撮影に関わる仕事をしていると聞いています。	536	昨年度、コロナ禍真っ只中に卒業していった子達です。 楽しみにしていた卒業遠足も中止になり、様々な制限のある毎日を卒業式まで過ごしました。卒業式後、教室に戻ると、全員で「先生、ありがとう！！」と声を合わせて言ってくれました。大変な毎日を過ごしていたのは、子ども達も同じだったのに…。とても嬉しくて思わず泣いてしまいました。	537	初めて中学の教壇にたち、また、クラスを持った時。その時結婚が決まっていた帰りの会のとき、先生早く！といわれ行ってみるとサプライズでDVDをつくってくれたこと。寄せ書きをくれたこと。そして当時不登校だった子がそのDVDで学校で撮影してくれてたこと。そしてこれが全て子どもたちの自主的行動だったこと。これが今一番子どもたちの前で大泣きしてしまうくらい心に残るでござります。
538	中学校の進路指導で、私が勧めた高校へ入学後、1年も経たないうちに同級生からひどい「いじめ」に遭い病院へ入院した？子が、痛々しい姿で涙ながらに語った言葉とその時にくれた信州土産の「はと車」が忘れられません。その後も激動の半生を生きてきた彼女、彼女の生き様から私は多くのことを学ばせていただきました。しかし、彼女を守り切ってやれなかったことが悔やまれてなりません。彼女のこれからの人生に幸多かれと祈るばかりです。	539	退職するまでに中学校を経験してみたくて、思いきって小学校から転動しました。最初、生徒との接し方が分からないことや、余りにも自由奔放な子どもたちに我慢出来ず怒りをぶつけてしまいました。家庭訪問をすることから関係作りを始めたことを思い出します。少しずつ子どもたちの位地に降りていけるようになって、心の扉を少し開いて貰える事を学びました。人に気付かれないよう、メールで気持ちを聴くことも出来ることを知りました。危なっかしい私に反発しているようで、実は心配してくれる優しい温かい子どもたちなのだと思えられました。子どもたちから、人として成長させて貰った事がいっぱいあった事を懐かしく嬉しく想いだし感謝しています。	540	私が学校事務職員をしていた時のことですが、夏休みに、社会人になった卒業生が訪ねてきて、自分が中学校時代未納だった給食費を納めに来ましたと言って話し出したのです。この事は、私が事務指導員になってから、指導員だよりで紹介したことがあります。こんな事はもちろん初めてで、どうして良いのやら、教頭先生と相談して受け取ることにしたのですが、今もその日のことをよく覚えています。どんな気持ちで中学校生活を過ごしたのだろうか、子供だったのに凄く気にしていたのでしょうか。私は、誰もがそんな思いをしないで済むようにと思い、給食費だけでなく、諸費や修学旅行費など、しっかり考えていかなければならないとあらためて大切に考えていく必要を感じました。自分ができることはほんの少しですが、学校集金を通じて家庭の様子がわかる事がありました。現金集金を引き落としに変えたり等、子供たちが少しでも嫌な思いをしないで済むようにしようと考えました。コロナ禍の現在、もっと色々な事があると思います。子供たち一人一人が、明るく楽しい学校生活を送れるようにと願うばかりです。		